

令和4年度
埋蔵文化財普及・公開事業

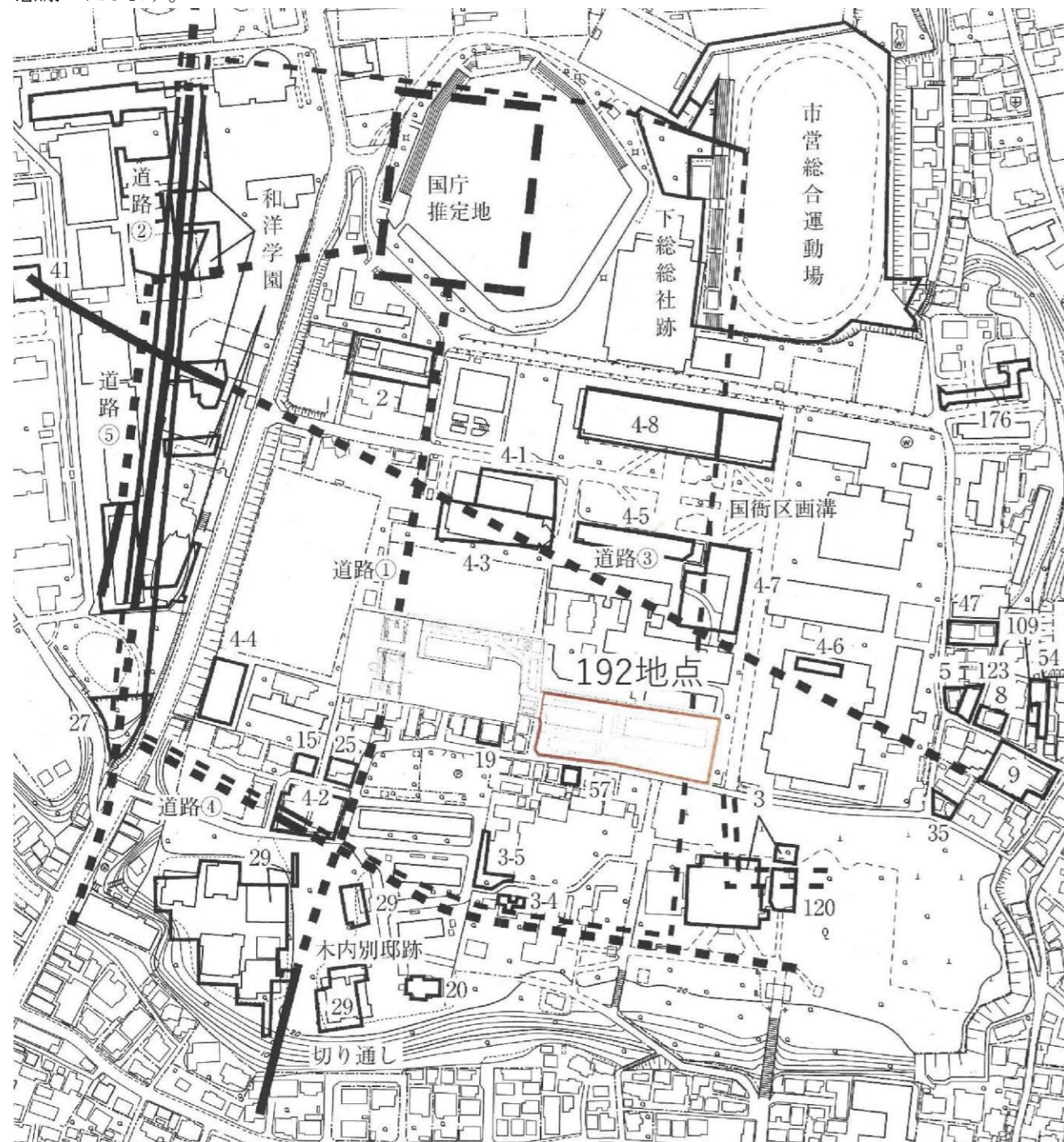
国府台遺跡192地点 遺跡見学会

千葉県教育委員会では国府台県営住宅の建替え工事に伴う発掘調査を平成28年から断続的に続けています。今回は第3次の調査にあたり、現地での調査はこれが最後となります。調査は昨年の12月から今年の5月まで確認調査をおこない、その結果に基づいて8月から本調査を開始しました。調査は12月まで続く予定です。調査区は建替え事業地の東側に当たり、現在3,794㎡を調査しています。

国府台は今から1,300年以上前から数百年にわたって、このあたりが「下総国」と呼ばれていたころ、国の中心となる役所が置かれていたところでした。国府台遺跡はこの役所跡を中心として北は国府台小学校の入口から南は弘法寺までを含む広大な遺跡です。今回の調査区は遺跡の南端に近い部分になります。

調査はまだ途中ですが、役所に関連する遺構の調査が進みましたが皆さまにも見ていただく機会を作りました。時間の許す限り古代の国府台に想いをはせてください。

今回の見学会の開催にあたり、市川市教育委員会に大変お世話になりました。最後になりますが記して感謝いたします。



国府台遺跡の古代道路想定図(市川市国府台遺跡192地点報告書(平成31年3月)を加筆転載)



令和4年9月23日(金)
雨天順延の場合25日(日)

千葉県教育委員会文化財課

国府台遺跡192地点 遺構配置図

- 調査対象範囲
- 確認調査終了範囲
- 陥穴(縄文)
- 竪穴住居跡(弥生)
- 竪穴住居跡(古墳)

今回、見学できる遺構は8-9世紀の奈良から平安時代にかけてのものが主体で、大溝と掘立柱建物と版築遺構は、遺構の軸がほぼ南北方向に揃っているので何らかの関連性がある施設であったと推測されます。また、国府が造られる前にも、弥生・古墳時代の竪穴住居跡が見つかったので、古くから集落があったことも判明しています。



「版築(はんちく)」は耳慣れない言葉ですが、上に大きくて重い建物を建てる時、建物が歪まないよう建築前におこなった基礎部分の整地作業の跡です。今のところ東西8m南北6m程度の長方形の中を整地したとありますが、後世に造られた陸軍関係の建物や旧県営住宅の基礎などが複雑に入り組んでしまい、非常に分かりにくくなっています。調査で部分的に確認できたのは整地底面から約1mの高さまでで、これより上半部は削られてしまったと考えており、どのような規模の建物が建っていたのかは不明です。整地作業は8m×6mの範囲を関東ローム層(赤土)の硬い部分まで一度掘り抜いてしまい、この穴の中に少しずつ土を戻しては突き固めるという作業を何度もおこなっています。断面に見えるミルフィーユのような薄い層(厚さ約4cm)一枚一枚が一回の作業で固められた土ということになります。同様の版築遺構は40mほど南側や60mほど西側の調査(国府台遺跡57地点・218地点)でも確認されているので、この周辺に大規模な建物が建てられていた可能性があります。

南北に長い建物の柱穴を確認しています。東西方向に3本、南北方向は今確認できているだけで4本の柱を建てていた建物で、建物軸は南北方向だったことが分かります。今回見学できる部分は旧県営住宅の基礎で大きく壊されており、柱穴の下の部分だけです。建物は大きく、柱と柱の間は2.5m近くあります。一つ一つの柱穴も1m近くあり、北西の柱穴で確認できた柱の太さも約50cmと太いものです。現在確認できる規模は東西方向5m、南北方向7mですが、まだ調査していない南側にさらに延びる建物だった可能性があります。



ほぼ南北方向に延びる大きな溝で、幅は3 m、深さは2m以上もあります。今回の調査で見つかったのは30 m程度ですが北側・南側にさらに続いているようです。溝は調査区の北側で一度途切れますが、5mほど北側に再び溝が掘られていることがわかりました。溝の掘られていない空白部分は溝の東西を行き来するための施設(土橋)ではないかと考えています。また、この溝の北側の続きと考えられる溝の一部が千葉商大構内の発掘調査(国府台遺跡4地点-8)で見つっています。

